



時事評論家 増田俊男

まだアメリカは 9/11 の真実を発表出来ない

アメリカでは国家安全保障上の秘密は、よほど安全保障を損なわない限り 30 年後に公表される。(於公文書館)

1941 年 12 月 8 日の日本の真珠湾攻撃が「アメリカのやらせ」であったことは既に公表された。

9/11 から始まったアメリカの中東侵攻においてアメリカのイラク攻略はサダム・フセイン(イラク大統領)から原油油田開発の利権を得ていたフランス、ロシア、中国が反対したので国連安保理の承認が得られなかった。

その為サダム・フセインを鬼畜に仕立てる為、毒ガス(アメリカの国会議員が犠牲になっていた)を移動している 8 台のタンクローリーの動画やイラク兵が病院で赤ん坊を殺害した衝撃的シーンを泣きながら訴える少女の映像を繰り返し報道、そして当時のコリン・パウエル国務長官は国連安保理に動画を示してサダム・フセイン政権打倒の安保理決議を求めたが認められなかったが、国際世論はバクダットを火の海にしている米軍に拍手を送った。

パウエル長官は辞任後、タンクローリーが運んでいたのは水で、少女は駐米クウェート大使の娘で映像は広告会社のプロダクションで何度もリハーサルして作ったものだと公表した。

オバマ政権以来アメリカは中東撤退を決めていたのでパウエルの真実暴露はアメリカの世論を中東関与反対に誘導する上で役にたった。

アメリカでは真実は公表が役にたつまで公表されることはない。

9/11 の真実は発生してから 30 年後の 2031 年(あと 10 年)に公表されるが、その時は、丁度戦前の日本で 226 事件後皇道派(近衛文麿)に代わって統制派(東條英機)が主導権を握り、大日本帝国の主導権が陸軍に変わったように、現在のアメリカの支配構造(軍産主導)が変わる時になる。

今は丁度、世界経済覇権と軍事覇権が変わろうとしている時であるが、変わるのはアメリカであって中国ではない。

「インターネット国際政経塾」(増田塾)で先ずは世界・人類の大河の流れを掴むことが重要である。

お見逃しなく

「インターネット国際政経塾」(増田塾)はいつでも参加出来、又いつでもお好きな時に視聴出来ます。

本日(9月13日)の講義内容

1. 国際資金の流れが変わる
2. 菅総理の自民総裁選辞退で何故株価が急騰したのか
3. 9/11(セプテンバー・イレブン)から 20 年、「テロとの戦い」とは何だったのか
4. 日本だけまだ戦後が終わっていない
5. ケネディ暗殺の真相をバイデンは 10 月に発表するか、それともケネディ同様暗殺されるか

見逃せないことばかりお話しします。

★Youtube「増田俊男チャンネル」にて毎日動画配信中！

視聴方法:Google、Yahoo などから「増田俊男チャンネル」を検索して下さい。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。